

子どもたちのための よりよい幼稚園経営のために

平成29年度学校評価の結果を公表します

ふたば幼稚園の学校評価は

保護者の皆様へ子どもたちの確かな成長と安心

を提供できるように

幼稚園の運営や活動を振り返り、保護者の皆さんの思いや声を聞き、街の人の評価や助言を得て、子どもたちにとってよりよい子どものための幼稚園づくりを進めるために行なっています。

ふたば幼稚園では<次のことを行ないました>

- ふたば幼稚園の保護者の皆さんの声を聞きました。(12月アンケート実施)
 - ・ 評価、感想、願い、期待、励まし・・・
- ふたば幼稚園の教職員が反省と自己評価を行ないました。
 - ・ 保護者の皆さんの声も参考にしながら
 - ・ 9.5項目に渡るチェック項目をもとにした反省会議と自己評価
- ふたば幼稚園に関わりのある外部の方々から評価を頂きました。
 - ・ 地域の方々、ふたば幼稚園をどう見ているか
- これまでふたば幼稚園と直接関わりの無い教育の専門家から長年にわたり評価を頂いてきました。昨年度不手際から実施できせんでしたが今年度、幼児教育の専門家の指導・助言を得ることで評価に客観性を持たせることが出来ました。

<その結果を>

自己評価結果公表シートにまとめてありますので、ご覧ください。

1. 本園の教育目標

幼児の主体的な活動や遊びを保証し、楽しく幼稚園生活を送る中で個々の伸長を図るために、園庭の自然や広いグラウンド等を活用し、「子どもの世界」の充実を図る。また、諸行事を進める中で新しい体験や感動できる機会を設け、一人ひとりが「子どもの時間」を堪能できるよう努める。保育者と幼児の人間関係を深め保護者の協力を得ながら、幼児が集団の活動や遊びの中で共に伸びることを目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領の内容に沿って、保育環境の整備と活用にも努めると共に、日常の保育活動や諸行事を見直し、改善と充実を図る。保護者との信頼関係の中で幼児の確かな成長を目指し、家庭との連携を更に深める。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	本年の教育計画(「ふたばの教育」)を基に、教職員相互の共通理解を図りながら進めている。設定保育や諸行事等については、更に教育計画の具体化を進め改善を図りたい。
幼稚園の状況を踏まえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	幼稚園の果たすべき役割の変化や新制度への流れなどについて、情報を集め共通理解に努めている。新幼稚園教育要領への移行に向けての実践的な研修も重要となっている。また、本園の特色ある運営や小学校教育との接続について少しずつ前進している。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	幼児個々の状況を的確に把握し、効果的な実践活動を進めるため、職員会議を定例化し、教職員間で成果や課題を共有できるよう努めている。また、日常の保育の積み重ねを大事にし、お互いに助言やサポートをしやすい環境づくりに努めている。
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	春の家庭訪問、個人懇談会、日頃の情報交流、保育参観日、保護者アンケートの実施等を通じて、保護者の意識や要望を把握し対応しようとしている。 また、保護者が幼稚園の仕組みや考え方を理解できるように、情報を提供するなど説明責任を果たすよう努力している。 次年度から新制度へ移行することから説明会で丁寧な説明を行ない保護者の理解・協力を求めた

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教職員がチェックリストや保護者アンケートの結果を基に自己評価を行い、計画や取り組みを見直し今後の改善と充実につなげる上での基礎資料の積み上げを図っている。
保護者も含めて外部の方々の方々の声を聞く中で評価に客観性をもたせ、また良い評価は、教職員の次への意欲につながった。

5. 今後取り組みむべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
安全管理	「安全・防災計画」の作成を通じて、教職員の理解と意識の向上が見られた。しかし年2回の避難訓練は行われているが、マニュアルに沿った教職員の具体的な訓練が十分ではなかった。また、津波を想定した高所避難所の活用について園舎近くの高層住宅(社宅アパート)所有の会社と約束を取り付けている。市の指定避難所への避難・移動訓練等実施していきたい。
特別支援教育	個別の指導計画の作成や、医療・福祉の関係機関との連携の在り方について、今後さらに検討したい。市の健康こども部等関係機関との連携もより強化したい。
園に対する保護者の満足度の把握	教育活動だけでなく子育て支援という視点から、保護者のニーズや満足度をとらえたい。そのためにも保護者アンケートや懇談会の内容等について工夫する。

6. 学校関係者の評価

少子高齢化の進む中心市街地で、定員を上回る入園希望者があり、保護者の満足度の高さがうかがわれる。また、教職員の確かな指導や保護者への適切な対応ぶりが感じられる。子どもたちも異年齢間の垣根がなく明るく伸び伸びとしている。地域行事への積極的な参加は、園児の体験、活躍の機会であり、一人ひとりの成長や次への意欲付けに重要であるが、参加機会が縮小傾向にあり新規の開拓が迫られている。

7. 第三者による評価

子どもたちの確かな「成長」と保護者への「安心」を提供することを共通の目標とし、教職員が「協働意識」のもてる職場環境であると押さえている。昨年度は、この部分の評価が空白であったが、今回札幌市内の短期大学の幼児教育の専門家の評価をいただき、より広い角度から反省することができた。

8. 財務状況

公認会計士監査により、学校法人会計基準に準拠し、経営及び財務状況等、適正に運営されていると認められている。